

1. 検証の目的

創設2年目を迎え、区民評議会での意見や答申を反映した区域のまちづくりが進められる中、また、幅広い市民・区民の意見を反映したまちづくりを進めることも求められている。このことを踏まえ、区民評議会の果たすべき機能・役割をより一層高めるため、委員の構成並びに活動内容について検証を行うもの。

2. 開催状況

諮問事項	南区の特性を活かした健康で活力あるまちづくりについて								
開催日時	第1回 2016/4/27	第2回 2016/6/21	第3回 2016/7/20	第4回 2016/8/22	第5回 2016/9/30	第6回 2016/12/15	第7回 2017/2/1		
主な内容	平成28年度の諮問事項について 応募型地域まちづくり支援事業について		平成28年度の諮問事項について 応募型地域まちづくり支援事業について		平成28年度の諮問事項にかかる中間報告 (案)について		平成28年度堺市南区区民評議会諮問事項答申(案)について		全7回
傍聴者数	2名	4名	1名	4名	7名	3名	2名	計23名	

3. 委員の構成

	委員数	委員の属性・実態																					
		男女比率		年齢(H27.6.1時点)						区域内に在住・在勤・在学比率				構成比率				会議への出席率					
		男性	女性	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～	在住	在勤	在学	その他(市外)	区域内において公益的な活動に従事する者	学識経験者	公募委員	その他市長が適当と認める者	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
南区	12名	8名	4名	3名	3名	2名	2名	5名	9名	2名	1名	1名	7名	2名	2名	1名	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	100%	100%	83.3%
		66.6%	33.3%	%	%	25.0%	16.7%	16.7%	41.7%	75.0%	16.7%	%	8.3%	58.3%	16.7%	16.7%	8.3%						

4. 活動内容に対する検証と今後の方向性

項目	視点	検証	今後の方向性	評価
①開催状況	・区域課題や実情の把握	・諮問事項においては、まちの活力低下などの顕著な課題及び、大規模事業の計画策定等、将来の変化が想定されることについて関係機関からデータ等の提供を受け、情報提供したが、区民評議会自ら提案のあった調査審議事項においては、提供した情報が一部、不十分なものもあった。 ・フィールドワークや勉強会を実施して、区域内の課題や実情について共有を図った。	・関係機関と定期的に情報共有の場を持つなど、情報収集をさらに強化するとともに、必要に応じて勉強会も活用し、地域の実情や課題共有を図る。 ・区民に積極的に情報発信し、区民ニーズの把握を行う。	
	・議員との情報交換、共有	・年1回、区選出議員との意見交換会を実施しているが、定期的に区選出議員が把握している地域の実情を情報共有する場は設けてはいない。 ・意見交換会に際して、議員に資料や審議状況などを事前に提供することで会議が活性化された。また、議員からは議論に沿った意見や事例を披露されるなど情報共有の場となった。	・議員との意見交換会の開催日決定にあたっては、議会日程や議会行事等を把握しううえで、中間報告書の整理状況を踏まえ調整を行う。 ・会議開催のお知らせの際に、審議状況についての情報提供を行うとともに、議会質問等の聞き取り時や事業に参加いただいた時など、機会をとらえて直接お話を伺い、情報収集を行う。	B
	・諮問事項の妥当性	・少子高齢化や若い世代の転出による活力低下が課題となっている中、「梅・木多木多駅前活性化土地利用構想」や「原山公園再整備基本計画」策定の時機をとらえ、緑道や公園等南区の特長を活かした区域活性化を図る諮問事項になっている。	・議論の成熟度や答申の内容を踏まえ、区域の現状、区民ニーズへの対応など重要性のある事業を中心に、南区まちづくりビジョンの方針と整合性を持たせつつ諮問事項を検討する。	
	・市民、区民の関心を高めるための工夫	・区のホームページや広報紙で会議開催の日時や傍聴の案内、審議内容等を発信している。 ・区民評議会を身近に感じてもらえるよう、課題とその解決のために議論されている内容をわかりやすく表現したチラシを南区全戸に配布した。	・審議内容をわかりやすくまとめたものを、会議終了後から1週間程度でホームページに掲載する。 ・区民評議会のアウトプット事業展開の際には、チラシなどに区民評議会関連事業と明示するとともに、ホームページの案内も掲載する。	
②委員構成	・男女比、年齢層、区域在住・在勤・在学者のバランスと人数	・男性かつ70歳以上の方が最も多く、全体の4割を占めている。 ・女性の割合が少ない。また、39歳以下の年齢層が少ない。 ・区内在住、在勤者が約9割、区外在住・在勤者が約1割と、区域内での活動者が圧倒的に多く、委員間討議でも地域の実情などの情報を積極的に発言いただいている。	・委員の女性比率を増やすとともに、議論がより一層活性化・深化するよう諮問事項に応じて構成する。	
	・区域内活動者、学識経験者、公募委員のバランスと人数	・区内活動者は約6割で多様な分野の方に参加いただいている。 ・公募委員は2割に満たないが、区民目線から積極的に発言いただいている。	・議論を深めるため、諮問事項に応じた精通者(専門家)等も視野に検討する。	C
	・公募委員の役割と活動内容	・委員間討議の口火を切るなど積極的に発言いただいている。 ・情報収集を行い独自の観点から議論されている。	・区民の積極的な参画を得るためにも公募は継続する。	
	・議論の内容などに応じた対応(特別委員や専門部会などの活用)	・特別委員の招へいや専門部会の設置については、現状、その必要性や区民評議会からの要請もないことから検討はしていないが、今後の議論の深度により、特に買い物困難者対策を議論する際には、検討の必要性があると見込まれる。	・審議状況に応じ、専門的観点からの意見が必要となった場合など、特別委員の招へいを区民評議会に申し提示、また、集中的に議論する必要性が生じた場合、専門部会の設置について進言するなど、区民評議会の意向を確認しながらも検討し対応する。	
③議論状況	・幅広い区民の意見の把握、取り入れ	・区域の実情をよく知る方に委員に就任していただいているため、議論の際、これまでの経過や現状について発言があり、区域の現状や課題共有等が図れている。 ・委員に公園や緑道・歴史文化資源など実際に現場を歩いていただき、それらの資源の課題や魅力を実感していただいた。 ・アンケート調査を実施し、実態の調査確認、区民ニーズを把握、その調査結果を踏まえて今後の議論を展開していく。	・地域の状況を把握しううえで議論することが必要であることから、今期と同様に次期委員の選定の際も、各方面の地域精通者は必要である。 ・必要に応じて区内で活動されている方などからヒアリングを実施し、現状把握を行う。	
	・「地域性」と「専門性」両方の視点による議論	・地域の課題が多岐にわたるため議論が広がる傾向にあるが、それだけに、情報量が多く、様々な角度から活発な議論が展開されている。また、学識経験者により論点をまとめながら議論が進展している。 ・日々の地域活動等で把握されている状況からの発言や、これまでの経験から得られた知識などにご自身の考えを加味し発言をされており、様々な意見が出されている。	・議論内容が広がる傾向があることから、論点に集中した議論となるよう、勉強会などで事前に補足資料等を提供する。 ・議論の深掘りが必要となる場合などは、専門性の高い委員(特別委員)の招へいを検討する。	A
	・自立発展性	・5月に2回、フィールドワークを実施した。 ・委員からの発意により「買い物困難者への対策等について」調査審議を継続中である。 ・買い物困難者への対策の議論が現状のニーズに即した展開となるよう区民アンケートを実施している。 (無作為抽出による高齢者へのアンケート及び子育て世代へのアンケート)	・諮問事項の議論の活性化を図りつつ、勉強会や資料説明時に各委員の意向を積極的に把握するなど、様々な場面で働きかけをするとともに、状況に応じた提案をしていく。	
④区域のまちづくり	・区域のまちづくりに対する有効性	・緑道等の利用価値を高め、その特長を活用した運動の習慣化についての中間報告をもとに、平成29年度当初予算で2事業の要求を行う。 ・昨年度の答申を踏まえて、親子防災訓練の実施をしたほか、地域の実情に応じた防災意識の啓発の実施に向けて関係部局との調整を進めている。	・南区まちづくりビジョンでの位置づけを確認しつつ、中間報告や答申に基づいて事業を展開していくとともに、実施後にアンケートを取るなど区民ニーズに沿ったまちづくりを進める。	A
総合評価		・諮問に基づいて、理想形と地域の実情を共有しつつ、あるべき姿を模索していただいている。 ・区域内活動者、学識経験者、公募委員など、多様な視点から議論が展開されている。 ・施策の個別具体的な状況や展望などの質問に対し、事務局側も即答できない場面があるなど、議論の集中・深堀が十分にできなかったケースも見られた。	・地域の実情や諮問事項に関する情報を適宜共有できるよう、諮問事項に応じた委員の選任を行う。 ・議論の深度をより深めるため、委員の求めに応じて適切な資料提供ができるよう、事前に委員の疑問や意向を聴取し、適切なデータ提供を行う。	B

(評価基準)A:機能を十分果たしており、現時点において見直す点が見当たらない B:機能を果たしているが、より良くするために見直す点がある C:期待される機能を果たすために、いくつかの見直す点がある D:期待される機能を果たすための課題が多く、見直す点も多い